

「七日市場の歴史(第五十一回)」

文人画家 細田香雨さん ②

曾根原 孝和

グループ活動 明治三十八年、二十三歳の香雨は、師事していた藤森桂谷が死去し、仲間と絵画グループ「乙巳会」をつくり活動しました。

展覧会では、大正三年に豊科小学校で「信濃美術展覧会」を開き、出品総数が二百余点という当時としては大規模であったといわれます。

グループは、昭和七年画業中心の「乙巳会」から漢詩作り中心の「乙巳吟社」に改名され、作られた詩などは会田血涙主宰の『信濃不二』に発表されました。

香雨は、これらのグループの事務所を自宅に置き、会の一切を担当し、文人としての生涯はここにあったといわれています。子息の亥八郎さんは「若いときは真摯に画を論じ、詩を語り、老いては詩画を通じて清く交わり、その交遊の美しさは、子の私の目にもまことにうらやましいものでした」と述べています。

区や村とのかわり 文人肌で詩画三昧の生活を望んでいた香雨ですが、生まれ育った七日市場や村との関わりも多くありました。

昭和三年、仲間と「温明美術会」を結成し、温明小学校を会場に「御大典奉祝温明美術展覧会」を開催しました。県下の美術家の協力を得て、日本画・洋画・彫刻・書など三〇四点という大きな美術展で、翌年も同規模で開催しています。

七日市場では、北沢山林の議員を十五年間、民生委員を十二年間務めました。昭和三十四年には、初代老人クラブ会長に選出され、その後村の会長、郡の副会長も務め、会の発展に努めています。

老人クラブでは、「安曇盆唄」の唄と踊りの復元に取り組み、レコード制作にも尽力しました。

絵画では、昭和二十八年、三郷村の公民館に長く掲額されたた「北アルプス連峰」の大作があります。



北アルプス連峰 (267 cm×60 cm)